

「標茶町行財政改革推進計画」町民説明会
－ 議事録 －

1. 日 時 令和8年5月19日(火) 午後7時00分から午後8時45分まで
2. 場 所 虹別酪農センター
3. 出席者 【参加人数】 15人
【町役場】 町 長 佐藤 吉彦
副町長 牛崎 康人
企画財政課長 齊藤 正行
行財政改革推進室長 内藤 政夫
4. 会議内容
 - (1) 開会
 - (2) 開会あいさつ
 - (3) 説明
 - (4) 質疑応答
 - (5) 閉会あいさつ
 - (6) 閉会
5. 会議経過
 - (1) 開会 午後7時00分
 - (2) 開会あいさつ
次のとおり町長よりあいさつを述べた。

本日は、「標茶町行財政改革推進計画町民説明会」に、ご参加いただき、誠にありがとうございます。

現在、標茶町では、人口流出や少子高齢化による過疎化の進行、それに伴う人手不足、公共施設の老朽化など、さまざまな課題を抱えております。これらの課題は収入の減少や維持経費の増加につながりますが、加えて、近年の物価高騰などもあり、町の財政を取り巻く状況は年々厳しさを増しております。

こうした中、このまま、これまでと同じ形で事務事業や財政運営を続けていくことは、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていく上で大変大きな問題であることから、令和7年6月16日に「標茶町行財政改革推進計画」を策定いたしました。

この計画を策定し実行していくことは、現在の町の状況や課題を町民の皆さまと共有しながら、厳しい状況を乗り越え、これからの標茶町をより良い方向へ進めていくための取り組みであります。

そして、行財政改革は、行政だけで進めるのではなく、町民の皆さまとともに考えながら進めていくことが大切であると考えております。

計画策定から2年目となる今年は、より具体的な取り組みについて、皆さまと意見を交わしながら、将来に向けた基盤づくりをしっかりと進めてまいりたいと考えております。

行財政改革という言葉を聞くと、「削減」や「見直し」といったイメージから、不安を感じられる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、それは単に何かを減らしたり、なくしたりすることが目的ではありません。限られた財源の中で、本当に必要なサービスを将来にわたって維持し、次の世代につないでいくための取り組みであります。

そして、見直しによって生まれた財源を活かしながら、ふるさと標茶がこれからも「元気なまち」であり続けられるよう、将来への投資にもつなげていきたいと考えております。

本日は、なぜ今このような取り組みが必要なのか、また、標茶町の現状や今後の方向性について、できるだけ分かりやすくご説明し、皆さまから率直なご意見やご提案をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 説明

「標茶町行財政改革推進計画」の概要について町長より説明。

(4) 質疑応答

次のとおり参加者の質疑に対し回答を行った。

【プライバシー保護及び個人情報保護の観点から、個人名や固有名称は表現を変更しています。また、録音品質により聞き取りづらい部分などは最低限の補筆を施しています】

参加者①:

参加者①です。

えっとまず、くだらないことなんですけれども、この報告書はとても見づら
い。A4の両面でも良かったのではないかなと思っております。

はい、それがちょっと。

あと行財政改革ということですが、特別職の方の本気、給料の減額というこ
とでしたが、私たち公民館の運営委員をやっているんですけども、去年の10
月に、あの、4割減という形でなんとかやってほしいということが言われてい
たんです。

ところが、それ11月ですね。

12月に新聞で読んだ時に、あの、特別職の方の期末手当を増額したいとい
う。ま、否決されたんですけども、公民館会議で減額って言ってるのに、12
月の時の新聞でしか見てないんですけども、5万って何なんだろうって。

期末手当のですけどもね。

ってということと、それからあの、3月の時に一回否決されて、その後で可決
された。けども、その1回目の時には特別職の減額っていうのは確か、無
かったんじゃないかなと思って。で、否決された後で減額っていうのが出てき
たのかなというふうに思ってます。

もう一点について、だからその意味での本気度がちょっと私には、って、い
ろんなところで違うところでも私話したんですけども。

その時にやっぱり公民館の、その、何て言うんですか、特に阿歴内なんかは
暖房施設のことでは、とても困ってらしたみたいですし、そういう意味で、そ
れから今回いろんなことで、土曜日の閉館になるとかっていうことの中で、や
っぱりお掃除とかそういうのがね、その方がその仕事がなくなってしまったと
か、それから減ってしまったとか、職員がお掃除をするようになってしまった
ってということで、職員はじゃあやるべきことをやれなくなってしまうのかな
とかっていう。まあ無理だって言うんですけども、そういうことがとても、あ
の、まあね、って。

事務の方も臨時っていう形になってしまっ。前だとあの、職員名簿の中に
名前が載ってたのに、今は職員名簿の中に入らないということで、ちょっと寂しい
気がします。で、臨時では臨時でもいいから入ってくれる職員として、標茶町
の中でね、働いてるんですから。

ということと、もう一つは、私はその人口減とか物価高っていうふうに言わ
れてますけれども、私は正直言って、なぜこうなったかっていうのがちゃんと
はつきりしないと納得できない。

別の会議でもその話をしたんですけども、私の気持ちの中ではぽん・ぽん
ゆが一番の大きな要因ではないかと私は思っています。

その意味で私の気持ちを払拭させるためにも、ぽん・ぽんゆに、いくらかか

って町がどのぐらい使って、それからこれから支出することがあるのか。あの、ぽん・ぽんゆにもね。

なんか確かそれに対しても今後も何か支出しなければならないということも聞いたような気がするので、今後もそういうふうに出資することが必要なのかということ具体的な形で数字で、あの、なんかそうですね、口頭というよりも、なんか書いたもので見せてほしいなと思っていることですね。

で、出資ということは、やっぱり、あの、戻ってくることもあるのかなと思っています。で、戻ってくる見通しはあるのかなのかということも含めてお願いします。

町長：

はい。

最初は特別職の報酬のことを最初にお聞きしましたので、報酬については今年のあの 3 月の定例会の最初の議案の中に提案して、最初に可決されています。ですから、最初、否決されたっていうのは、新年度予算のことと勘違いされているのかなと思うんですが、新年度予算については、一度提案したんですが、あの、公共事業を削減しすぎだということですね、いろんな意見があって、さらに 1 億 400 万円の公共事業を追加して、最終的にまあ 3 月の末にですね、可決いただいたということで、そのことを言われたんだと思います。

参加者①：

12 月のはどうなんでしょう。

町長：

あれは、一般的に、我々特別職の給料につきましても、これまでは人事院勧告と合わせて、職員の部分が自動的に上がった時には、特別職についても自動的にスライドさせてきたという、ずっとこれまでと同じ形でやってましたので、それに沿って提案したというだけありますので、別にそれ以上の大意はありません。

他にも色々ありましたので、順番に説明させていただきます。

副町長：

先ほどあの 4 割削減のお話あったんですけども

去年の夏、秋ぐらいですね。

新年度予算の策定、令和 8 年度の予算を作るにあたって、厳しさが想定されたものですから、役場の全部署に経常経費の 4 割削減を目指して立ててほしいというお願いをしています。

その部分だと思うんですけども、最終的には 4 割まで、やはりできなくてですね、2 割、3 割程度の削減というところだったんですけども、あらゆる職場にそういうお願いをしたんで、いろんなところで町民の皆さんには迷惑がかかってしまうということは避けられたというふうに思っております。

それで、あと職員の部分あったんですけども、以前、臨時職員と言われて

いたのが会計年度任用職員ということになってます。

で、雇用の部分でフルタイムっていうものと、それからパートタイムっていうふたつに分かれてるんですけども、実は令和2年にですね、その臨時職員から会計年度任用職員という制度に切り替わったんですね。

その時に、周りの町はかなりですね、臨時職員から会計年度にするとときに、例えば昨日まで5時半までいてもらったけれども、明日からは、4月1日から5時まででいいので、30分ぐらい短くして、そしてパートタイムの会計年度職員というような運用をして、人件費の上昇を抑えたというところがあるんですけども、標茶町にあっては、それはしないですね、まずスムーズに会計年度任用職員制度に移行しようということをやったんですね。

で、その上で仕事に合った適切な配置等々を何年かかけてやっていこうということで動き出したんですけども、なかなかそれがうまくできていなかったということがあります。

で、今回ですね、それぞれ職場の点検をしながら、実際にフルタイムでなければいけないのかどうかということを確認しながらですね、フルタイムじゃなくても大丈夫というところについて、パートタイム、会計年度の職員を置き換えるということをやらせてもらいました。

議会の方でも随分議論があったんですけども、そこにある仕事に合わせた職を配置するということでやらせてもらったというところでありまして。あの、その職員をとかって言うんじゃないくて、そこにある仕事にどんな職種の人をつけるかというところで、私たちにすると最適化をさせてもらったというところになります。

それから、名簿の話もあったんですが、実は今、役場全体、町職員全体で見ると200数十名の正職員がいて、それから会計年度任用職員もそれに近く近いぐらい200人以上の会計年度の職員がいるんですね。

で、全員を名簿といいますか、それこそA3の表に載せるにしてもスペースがないというところで、元々は臨時職員を載せたかったんですが、過去に一度そういう議論があって、フルタイムの会計年度任用職員を載せてきたというのが最近のここ何年間かの状況なんですね。

それで、まあ、今はフルタイムだけ載せている状況なんですけれども、パートタイムの会計年度任用職員を載せると、やはり先ほど言ったように大人数になりますので、紙面の都合上ちょっと難しいのかなというふうに思っておりますけれども、ちょっといくつかあの、今日こういうご意見があったということは、ちょっと記憶にとどめておきたいなというふうに思っています。

それからぼん・ぼんゆの部分なんですけど、今後、ちょうど何らかの形で見せてもらいたいということがありますので、それについてはこの先の町民説明会の結果とあわせて載せるとか、その辺について考えなきゃいけないなというふうに思ってるんですけども。

ざっくりで言いますと、まずリニューアルするためにですね、16億8,000

※1

万ほどの費用がかかっております。

ちょっと内訳については今細かなものがないんですけども、環境省の補助金ですとか、それから補助金を充てて、残った分についてはですね、辺地債と

いう借金制度があるんですが、それを久しぶりに使わせてもらいました。

それまでは標茶町の過疎債という借金を多く使っていました。で、過疎債は、毎年返済する額の7割相当が、交付税という形で国から補填されるというふうに言われておりますが、辺地債については、8割補填されるというふうに言われておまして、極力、実質の負担額について抑えながら、安い価格でなんとか運用をしようということで動いてきたところであります。

それから、ぽん・ぽんゆに関しての収支というようなお話があったんですが、収支ではないですね。

作った後については、憩いの家の時代は、えーと、第三セクターを作って、標茶町観光開発公社という第三セクターを作って、そこに指定管理という形でやってました。

で、今は違う民間の会社に同じく指定管理という制度でやっておまして、運営をしてもらってまして、指定管理料を支払っています。

今の会社とは5年契約で、毎年、指定管理料ということで3,200万円を支払っています。

これについては、町が直営でやった時に人件費どれぐらいかかるかというのと、3,200万円以上かかるということがあったのと、それが、会社を決める時にプロポーザルという方式でやっているんですが、指定管理料いくらだったらどんなことができるかっていう提案をこう、手を挙げてくれた業者さんからですね、もらって、それを比較検討して、一番優れてるところに決めて、契約をしているという状況であります。

いま、ぽん・ぽんゆですね、指定管理者が雇用している職員が22名おります。で、町内の方が14名で、町外から8名の方が来ている状況なんです。で、町内に暮らして、町内にいる14人のうち、ぽん・ぽんゆ開業に合わせて引っ越してこられた方が4人おります。

ほとんどは、単身者なんですけど、一人だけ、家族持ちの方がいて、新たに転入してきた方について言うと、ぽん・ぽんゆ開業に合わせて9人増えているということがあります。

いずれにしても、22人のうち全部で14人ですね、14人の町内町民の雇用の場になっているということをやっていたというふうに思っております。

※2

※1 建設リニューアルにあたって、かかった総事業費は16億3,869万円。財源内訳の詳細について、別添資料としてホームページに掲載。

※2 税抜金額での回答である。令和7年度は1億8,115万円(税込)の売上げに対し、経費は1億7,100万円(税込)で、740万円(税込)の赤字。このマイナス分は運営会社側で負担してもらうこととなる。また、収益が出た場合は、利益の20%を町に還元してもらう仕組みとなっている。5年契約のうち1年目は指定管理料3,800万円を支払っており、以降の指定管理料については年3,200万円を支払っている。詳細について、別添資料としてホームページに掲載。

ぽん・ぽんゆが財政悪化の主な原因じゃないのかというご指摘なんですけれども、やらなければ、ぽん・ぽんゆの分の借金返済というのがありますので、確かに何も影響がないというわけではないんですけれども、かといって、ぽん・ぽんゆがあったから急激に悪化したということではないというふうに私どもは捉えております。その他諸々の、投資があつて、余力がない中で財政運営をしてきたということを先ほど町長も触れてるんですけれども、それでもギリギリですね、なんとかやりくりをしながら、使った分の資金については年度末に積み戻してということでやっていけるという目算で動いてきたんですけれども、それが物価高騰であつたり、人件費であつたり、そういったところでですね、余力がなくなってしまう、こういう状況になったというところがあります。

その目算が甘いんじゃないかっていうふうなご指摘については、それについては真にその通り受け止めなければいけない、反省しなければいけない、というふうに思っているんですけれども、見通しとしては、全くこういうことになるということがわかっていて、動いてきてるっていうことではないっていうところでは、ご理解いただきたいなというふうに思います。

参加者①:

私ちょっと、何か喋ってばかりなんですけれども、私としては、なぜ憩の家をなくして、ぽん・ぽんゆにしたかっていう、そここのところも疑問だったんです。っていうのはちょっと話あれなんですけども、私の恩師が、札幌にいた時の恩師が、憩の家をとっても気に入って、あの、ちょっと友達と来て、その、もう10年ぐらい前ですけど、来て、とっても気に入ったので、この人は九州出身なので、またさらにあの友達を呼んで、その次の年も憩の家で過ごして、いやもう本当にいろんな体験もできたし、とっても良かったと。

今度は奥さんを連れてきたいって言ってた矢先に潰れてしまったんですよ。その時にあの、まあ一時的につていうかね、まあいろんな問題が憩の家にあったために、ちょっと出資をしてもらえないかというふうに前の時に話が出て、それはもうダメだということになって、ましてや従業員も知らない中で、なんかあまりよくわからない食事券とかそういうのもあの、皆さん持つてる中で閉鎖ですって決められてしまって、本当に私の恩師の方もとても残念がってたんですよ。本当にあそこだって改修してそんなには経っていなかったと思うんですけれども。お風呂場とかね。

だから、それをなぜ、あの、やめてまで今のぽん・ぽんゆにして、これだけの1年間に3,200万ですか。やっぱり出てくわけですから、この厳しい中でそれだけ出ていくんだったら、そのお金を使っていろんなことができたんじゃないかっていう。私はやっぱり、それ含めて、先ほどの何かの新聞で読んだのでは、今回のそういう計画の中に、キャンプ場とか、あの湖に行くとこの通路とか、国かどっかで整備したのを、なんか標茶町で直すようにしたとかって、なぜそれが国で整備したのを標茶町が今度負担するのかっていう疑問の文章が出てたのがあったんです。あのネットの中に。

だから、そういうのも含めて何かちょっと疑問がいっぱいなので、先ほど言

いましたように、あの何かあのもっと具体的な形で出してもらえればなと思っています。

町長:

先ほどこや沼の話が出ましたので、かや沼は前の町長から引き継いだ時に、第三セクターで、当時緊急融資をして、2,000万緊急融資をして何とか経営を再建していただきたいということで、それが認められて、すぐのときでした。

私が町長に変わったときに。実際に開けてみるとですね、その2,000万については全て枯渇状態の中であって、経営が引き続き継続してやれるような状況でなかったです。

というのは、利用者が多くの人、あのかや沼を利用していただいたということは、町内の方が利用して来られたってことはわかってはいたんですけども、利用者が非常に激減していてですね、まあ非常に経営状況がよくなかったということです。

いろいろあの当時の経営者の方々と相談したんですけども、これ以上経営を継続すれば赤字が増えるだけなので、これ以上は無理だということです。当時、12月ぐらいの段階から、非常に厳しいという話ですが、そのときにすでに5月の連休まで宿泊客の予約が入ってましたので、なんとかその人たちのためにソフトランディングするために、議会に対して1,000万の追加融資をしていただけないかということも、ご相談も実は差し上げました。

それで、なんとか引き続き延命しながら、例えば、第三セクターの運営じゃなくて、民間への経営の変換とかですね、そういったことも考えながら実はやったんですけども、議会から1,000万の追加融資の承諾は得られないという状況で最終的に、かや沼の経営会社である振興公社をですね、倒産せざるを得ない状況になったというのが事実であります。

非常に残念なんですけどね。

参加者②:

参加者②と申します。

今の部分で行くのであれば、少し僕にも気になるなというところは、確かにぽん・ぽんゆの動きに関しては、町民の皆さん、比較的こう注目しているというかなですね、どう変わったのかなというのは確かに気になるころではあるのかなと思うので、当時のかや沼の頃の運営状況と、現在のぽん・ぽんゆの運営状況を、例えば掲示するとかになると、もう少しこう何て言うんでしょう、町民の皆様からの理解は得られるのかな。イメージがなんとなくわかります。

僕もそういうところが気になるころでもありました。

で、今の話とはちょっと変わるんですけど、先ほどおっしゃってた会計年度任用職員の話だったんですけども、僕もやっぱり子供がいるっていう状況だったんですけども、その子供の部分ですよね、学校の、例えば、特別支援対象の臨時職員であったりですとか、一部保育園の臨時職員、パートさん、この部分の時間が大きく削減されたという話があったんですけども、これについて

は、実際どのぐらい時間を削減してるんですか。

ま、具体的な数字がね、出てこないんだったら別にいいんですけども、僕もそうですし、ある一定数の町民の方々の部分からするとですね、やはりその子どもに充てる時間というのは、なるべくならば拡充してほしいという、あの、率直な思いですね。

なぜなに、という話ではなく、やはり財源がない中で運営していくというところの難しさ、必死さというのは、やはり理解はあると思うんですけども、その中でも子どもに充てる時間というところは、やはりある程度確保していただければ、安心して、学校や保育園に通わすことができるんじゃないかなという一つの意見です。

副町長：

ありがとうございます。

特別支援員という職でですね、先ほど言ったようにフルタイムの会計年度任用職員で、令和 7 年度まで仕事をしてもらっていたんですけども、さっき言ったような経過で、令和 8 年度からはパートタイムの会計年度任用職員ということにさせてもらってます。

で、これもですね、教育委員会と相談して、現場の話も聞きながら、フルタイムではなくてパートタイムで対応できるという話がありまして、切り替えたところですよ。

参加者②さんおっしゃるように、子ども・教育あるいは福祉の分野について、削るべきではないという意見、町民の方からたくさん、町民の方がそういうふうに思ってるっていうのは、こちら声が届いてるところなんですけれども、さっき言ったように、役場全体の経費を点検しながら削れるところは削るっていうところ、あるいは、拡大してしまっているところを少しでも、元の形に戻すとか、そういった中でやらざるを得ないことであります。

※ 3

※ 4

※ 3 特別支援教育支援員の会計年度任用職員で、フルタイムからパートタイムへの転換を行った職員は合計 8 人。この転換により削減された時間は平均して「1 人あたり週 3 時間から 4 時間程度」となる。フルタイム時の週勤務時間は 38 時間 45 分だったが、パートタイムでは「週 36 時間未満」となり、令和 8 年 4 月と 5 月の実績を確認すると概ね「週 34 時間から 35 時間」の勤務実績となっている。

保育補助の会計年度任用職員については、フルタイムからパートタイムへの転換を行っていない。

※ 4 1 日単位で見たときに、どのように「子どもに充てる時間」に影響しているかを確認したところ、これまでのフルタイム勤務の時と比較して僅かに「子どもに充てる時間」が減少してしまったことは否定できない。この部分については、学校全体の体制の中でカバーしてもらうこととし、大きな影響が出ないように運営していただいている現状である。

令和 8 年度にあたっては、病院、特別養護老人ホーム、育成牧場、保育園、そこについては、フルタイムの会計年度任用職員についてはそのままの状態になりますけれども、この先同じような作業をしながら、本当にフルタイム会計年度任用職員になるのかどうかということについて研究しながら、また、場合によっては進めてまいりたいというふうに今は思っております。

ご意見ありがとうございます。

参加者③:

はい。参加者③と言います。

ちょっとこの部分非常にわかりづらいのと、先ほど同様にありますけれども、僕も本当に同意見で。

まずこの将来人口の見通しというところが、西暦で書いてあって、各基金残高について、一方は平成、令和になってますけれども、中身これ、わかりづらいですね。できたらそのへん、昭和とか令和とかにしていいただければ、その人口減少がどのぐらい、で伝わっていたかっていうのがわかると思うんですけど。

これはまた明日からでも使うんで直せないものですか。

あとね、それはどうこうとしても、あの人口減少っていう、こう緩やかに下降してますよね。

ところがその各基金残高については、何だこれは一体、令和 5 年から 6 年で急激にガクンと下がっているのは、何かこう人口減少だけでは説明できないような何かがあったのかなというふうに、疑問が湧いてくるんですよ。そこについては特別な何かあったとかいうのはないんでしょうか。

町長:

私からお話ししたいと思うんですけども、ご意見のように、やはり影響のあったのはコロナ以降、それからロシアのウクライナ侵攻後にですね、円安があって、それが毎年長期化して継続していたところが一番の、例えばいろんな資材高騰やですね、そういったものに跳ね返っていった、例えばいろんな町から委託するお金もですね、毎年 1 割くらいずつ増額するというのが実は一番の原因だと思っています。

それと、その段階では一定程度公共事業については平準化して行っていますので、そこで特段に特別なものを行ったとかというのはある程度ないんですけども、それがずっとですね、重荷になってくるというか、それが実はやりづらいですね。

なかなか、その、毎年年度末ですね、いつも予算編成というのは大体 10 億前後のお金を、基金からお借りをしながら、実は予算編成組みながら、その年の新年度入ってから交付税の額が決まってきて、さらにいろんな事業をやる中で補助事業が確定してきたり、さっき言ったその有利な基準とか、そういったものを借りながら、財源を確保して行って、借りた 10 億をできるだけ少なくする、戻していくというのが実は今までの作業だったんです。

それが毎年毎年コロナ以降にそれが厳しくなってきたというのが実は現状で

す。それも例えば今、いろんな維持管理費の費用というのは極端に減らせられないですね、実は。

学校の数、それが極端に、じゃあ来年からじゃあ半分にしますよとかっていうことが実はできないし、もう一つは例えば人件費もですね、あの、今、昨年、人事院勧告してますけども、私は職員には、できる限り頑張っていたくために、人事院勧告が実施したとおりにですね、やっていただきたいと思って、今はやってますけども、そういったものも上乘せしていった、だんだん大きくなって。

何かを極端に大きなことをやったっていうのは、じゃあこれがあつたのでこうです、ってことは、まああり得るんですが、それをなかなか止めるわけにいきませんので、現在ある基金を有効活用させていただきながら、昨年、もう一昨年前か、議会にお願いして、通常の、例えば基金をですね、例えば町有整備の基金とかですね、普段あまり活用がしづらいものをですね、有効活用して使えるように中身を変えていただいて、来年の対策として一本化していただくとかですね、そういう作業を実はやってきたのは事実であります。

それで今の現状になったというのが正直なところになります。

本当に想定外という言葉を使ったら皆さんに怒られるんだと思うんですけども、そういうのがありながら、これからも今、ウクライナの情勢の中で社会情勢がもっともっと継続していくとさらに厳しくなるんで、厳しくさらに見直しをかけながら、それ以上悪化しないようにですね、今やってるっていうのが現状になります。説明になってるかどうか分からない。

参加者③:

もう一ついいですか。

町長:

はい。

参加者③:

私、去年まで、今年の3月か、桜公住に住んでたんですよ。

で、すごくいい公住で、まあ8年間住んだんですけども、すごい綺麗で、こんな素晴らしい公住だったらいいなと思って、釧路から移住してきたんですけども。

ただ、あの、公住が、改築工事が始まるっていう話が、その頃あったんですよ。なんでこんなに綺麗なのに改築しないといけないんだろうと、ずっと疑問に思ってたんですよ。

それで、その間にいろんなウクライナ戦争とかコロナとかあったんですけども、相変わらず改築工事が進んで、で、今年から急にもうやめたっていうことになったんですよ。

もうちょっと前に、コロナとかそういうウクライナがあるのであれば、そのころから考えて、その頃にやめるとかいう話では、ならなかった、なれないもんなんですかね。

でも、今もうズバッとやめているんで、もういろんな工事関係者には非常に大きな影響があると思うんですけども。

だったらもうちょっと先にやめられなかったのかなと。何かあったのかなと。やめられない理由っていうのはあったのかなっていうのが。

町長:

標茶町に移住していただいてですね、ありがとうございます。

参加者③:

素晴らしい。

町長:

あの、桜町の公住については、計画的にね、施設を改修していくということの事業をですね、実はやってました。

結構3階建てで、結構古くなってきてるものを住み替えをしながら、中を更新するために計画的にやってたんですが、確かにおっしゃる通り、2年前から桜の工事、改善を今止めてます。

止めてる理由というのは、空き家が出てきてるからなんです。実は。

本当の理由は、実は入る人もいないのに、いきなり工事の改善のお金をかけるのはどうかっていうのはもちろんありましたけど、その前は一定程度、実は公住も埋まってました、実を言うと。

それで、やっぱり次の方も含めてリニューアルするっていうことを計画的に実はやってまして。

ただ、コロナ以降は極端かなと思うんですけども、ちょっと時期的なこともあるんですけども、やはり人口減少の中ですね、公住の入居者が少しずつ減ってきたというのは事実。

それで、使わない空いてる公住の方にお金をかけるのはどうかということで、公住の事業もですね、かなり計画的にやっている部分もあるんで、例えば来年の事業をすぐ止めるにしても、いろんな関係者との調整も必要なんで、その辺はすぐにはパッとできないんですけども。

今はそういうことですね、入居者の空き状況を見ながら、しっかり公住も改修しておくという形で事業を今進めさせていただいています。

ですから、また、人口がまた戻ってくるよということがあれば、公住の改修もまた着手するとかですね、そんな風になるのかなと思うんですけども。

そういうふうになればいいんですけども、なかなかちょっと今の情勢は、ちょっと人口が増えるというのはかなりの状況なのかなというふうには思っています。

参加者②:

介護施設の部分でお伺いしたかったんですけど、やすらぎ園って今、昔の記憶しかしてないんですけども、かなり入居者が多くいたと思うんですけど、現在のやすらぎ園の使用率ってどのくらいですか。今もまだ100%を超えている

状態なんですか。

副町長:

えーとですね、ちょっと、どういう数字で説明すればちょっと、あのわかりやすいかなと思ったんですけども、もともとやすらぎ園で100床、100ベッドあったんですね。

今入ってる人の人数でいうと、今日聞いたのは確か49人だったと思います。待機者は、正確な今数字じゃないんですけども、いるんですね。

※5

ただ、以前ほどたくさんの待機者がいるっていう状況でもないですし、それから実はとりあえず登録はしてるんだけど、じゃあ明日順番来たら入るかと言ったら、いやまだいいわっていう方が結構いらっしゃるというふうに現場の方からは報告を受けてます。

参加者②:

なぜこの質問をさせていただいたかという、昔よく、あの言われてたのは、やっぱり入居したくても、なかなかこう、ベッド満床の関係でなかなか入れなかった。

そういった方々って、結局、標茶町外の介護施設を使う。

そうすると、やはり一人また一人と、人口が減っていくっていうところが、僕がよく聞いていたところだったんですよ。

やっぱりそういったところで、なるべくこう、今、標茶町在住している方を、一人でも、外に出さないっていうんですかね、標茶の中で完結していただけるような組織づくりとかっていうのが求められるんじゃないかなというところであります。

また、関連して、先ほどあの病院の使い方についてあったと思うんですけども、まあベッド数を減らすとかという部分とかももちろんそうなんですけど、例えば、このエリア、虹別とかだと、やはりその病院に行くにしてもですね、やっぱり移動距離があるとか、何かあった時ってなかなか間に合う時間帯ではないということも踏まえた時に、やはり標茶の街の病院っていうのがある程度充足な環境の中で置いてもらうっていうのがなかなか難しいところとは、と思うんですけども、そういう動きがあってもいいのかなって。

あと、よく言われている話かと思うんですけど、例えば病院の使い方っていうのをもっと積極的に使ってもらえるような動きっていうのがあってもいいのかなって思います。例えば透析とか、よく議題に上がるかと思うんですけども、今から透析の施設を導入するっていうのは、なかなか高額な費用だと思うんですけども、例えばそういうのを国に訴えかけてみて、導入をかけてみるとか、例えばそういう動きがあれば、そういうのが見えればいいのかなっていう思いですね。

※5 令和8年5月19日現在で入所者は49人。入所基準（要介護3以上）を満たす待機者は47人登録されているが、そのうち入所の意向があるのは17人。

やはりそれで一人でも多くの人が町外でやっぱり動いてしまうと、やはりゆ

くゆくは標茶町を出てしまう人々が増えるということで、流出を抑えるという部分を考えれば、そういう行為があってもいいのかなと思います。

あと、こういった議論が非常に、議会の中で執り行われているというのはわかるんですけども、例えば議会の動きとかというのを町政だよりで見させていただくのはもちろんなんですけども、もっとそういった部分を見える化に取り組んでいただければ、非常にわかりやすいのかなと 例えば、緊急災害用の配られたラジオとかあったじゃないですか。

例えば、ああいうので、議会を。

あれって議事録を作成するにあたって、確か録音もされてますよね。

例えばラジオを使ったりとかして放送して、町民の人が議会の内容を聞いてもらうとか、やっぱりそういった動きがあると、今標茶町の議員さんの方々はこういう動きを積極的に取り組んでいるっていうのを、町民の人々が知ることができるのかなという思惑があるんですよね。

だからそういった部分で、議員の方々ともしっかりそった中で行動ができれば、一人一人がまちづくり、担うことができるのかなって思います。

という、どちらかという要望というか、意見になります

町長:

何点かありましたので、あの、議会の動きについては、こういうご意見があったということは、議会の方にもお伝えしたいと思います。

それから、病院についてはですね、透析の話もあったんですけど、透析やるにしても、例えば専門のお医者さんとか技師が必要だとか、今の施設改修するだけで何億円かかるとかですね、そういった実は状況の中で、実は透析を本当はやりたかったんですけども、なかなかできないでいるのは実は正直なところなんです。

あと、病院については今、やはり非常に赤字運営の中で象徴的な施設にちょっとなっちゃったりしてますので、なんとかですね、もう少しスリム化しながら、経費を削減できるように体制を考えながら、病院を存続するっていうか、そんなこともですね、今、あの関係者で議論してますので、もう少し方向性ができるだけ早く出したいなと思ってますので、よろしく願いをしたいと思います。

やすらぎ園につきましても、できれば、100床あるんですけども、ただ、現実的に将来の人口規模とかそういったことを考えるとですね、これくらいの規模がふさわしいのかということも、早急に結論を出したいなと思ってますし、ただ、施設を維持するとなると、例えば実は介護保険料にもはね返るんですね。

そのベッド数、病床数に応じて介護保険料を算定されていますので、それも皆さんに了解された上でですね、施設の在り方もですね、考えなければならぬというような状況でありますので、まあ、ただ、標茶町だけですね、介護とか医療も、そうなんですけども、広域にいろんな施設があります、例えば、弟子屈とか釧路町とか、いろんな施設ありますので、いろんな人にお話を聞いてみると、例えば、まあ虹別だったら弟子屈のほうが近いからって言ってる人

も、いろんな話聞く人もいますし、それぞれの特色がある介護保険の施設とかありますので、そういった選択肢もですね、標茶ですべての施設を揃えることというのは不可能ですので、皆さんですみわけをするような形で、その中で標茶はどういう形の、例えば施設を持っていくのかとか、特養のあり方はこういうものがないんじゃないかとかっていうのを、個室になるとやはり高いので、一定程度多床室の形がいいよっていうようなご意見をいただく方もいますので、その辺も含めてですね、今後改修のときにですね、在り方、まあ改修をどういう形にするかの方向性もこれからなんですけれども、そういったことも、参考にしていきたい、そのように思っていますので、ご理解をいただきたいと思います。

参加者④:

参加者④です。

今日はありがとうございます。

私の方からなんですけども、歳出を抑える方の話はいろいろされてるんですけども、入ってくる方の話って、検討はされてはいるのかなとは、思われているんですけども、そのあたりがどうなのかなっていうところがありました。それに関してなんですけども、まあ公共施設や町有資産の適正化、効率化の中に、空き家有効利用の売却や貸し付けを行うという項目があるんですけども、この中で多分施設の活用になると思うんです。

その施設を使ってですね、あのなんか企業誘致とか、そういったものができないのかなと。

弥栄の学校の跡とか古いんでしょうけれども、他にもね、あの使われていない施設ってあると思うんですけど、そういうところに企業さんと呼び込んで、まあ企業さんが来てくれて、そこに住む人が増えれば、当然標茶町の人口が増えるわけですし、そのあたりの、まあ工夫というかね、あの検討はされているものなんでしょうかねというところと。

まあ、あと、先ほど参加者③さんの話でね、標茶町を気に入って、標茶町に移住していただいたってすごいありがたい話があったと思うんですけども、塘路かどこかの方で、お試し住宅って、今やられているという話を聞いているんですが、その辺の活用状況がどうなのか。

あと、今、桜公住がね、今空いてるよという話があるんですけども、そういう活用、空き家の活用じゃないですけども、まあその辺を例えば、お試し住宅地として活用するとか、で、町として、やっぱりそれを残すのであれば、まあ入っていただきたいということであれば、その辺の、なんだろう町営住宅でしょうかね、の入居の基準をまた見直すとか、見直して緩いものにして、やっぱり人に入ってもらいたい、入ってもらうことによって、まあ多分町の方にもお金が入るのかなっていうところはあると思いますので、まあその辺のね、検討もどうなんでしょうかねというところですね。

あとはまあ人口増、まあ人口増ってね、今、全国的に人口減になってる世の中ですから、できるだけいかに人口の減少を抑えられるか、まあその中でね、やっぱりそういった標茶町としてPR、標茶町こんなにいい街なんだよって

う、やっぱり PR をしていただいて、やっぱり標茶に住んでもらう、いっぱい、たくさんの方にね、住んでいただける環境、これをやっぱり標茶町としてやっぱり提示する、地域おこし協力隊の方もいらっしゃいますし、やっぱり今、YouTube でもね、登録者数 3,000 人超えた、ですかね、昨日。昨日くらいに 3,000 人だったと思うんですけども、なってると思うので、やはりそういったものとかをうまく活用して、やっぱり標茶に、住んでいただけるような環境を作っていくね、人口減でね、入るものが減ります、じゃあ減るものを抑えますっていうところじゃなくて、その辺りもね、ちょっとご検討をいただいているのかなというところで、その辺りもちょっと聞きたくて。はい。なんかたどたどしくなってます。

町長：

今ですね、まあ暗い話ばかりしてるんで、明るい話をもっと喋らないとダメだということで、ちょっと気合入れられたのかな、と思ってるんですけども。

お試し住宅とか塘路地区で実は初めてですね、補助制度を入れながら、まあ実質お金がかからないという形で土地を提供するとか、そういう仕組みを今先行してやっています。この部分はですね、ぜひあの全町に、全地域に拡大をしたいなと思ってますので、その時にはですね、是非、土地の提供も含めてですね、皆さんでご検討いただければ、そのように思っております。

あと、公営住宅の活用の部分では、現在も可能な範囲で、目的外使用とかですね、入居基準を下げたりとかですね、そういう工夫を今やっていますので、ぜひ、何かあればこういう人入れませんかって声をかけていただくのが一番早いと思います。是非お願いします。

それから町の YouTube、登録者、昨日だと思えますけど、3,000 人超えました。実は虹別に住んでいる中道さんが積極的に YouTube の撮影やっていたいてですね、非常にクオリティーが高いということで評判になってますし、中には 6 万回超えた YouTube もありますので、ぜひですね、皆さんで PR をするときに、標茶 YouTube をぜひ見ていただきたいということで、PR していただければと思います。

それから、新たな財源として、やはり一番はふるさと納税だと思っています。ふるさと納税につきましては、標茶スタート遅かったんです。

私が町長になってから実は始めたんですね。

そんなこともあってですね、出遅れてるんですが、なかなかまあ海産物のある町にはもう全然足元にも及ばんですが、令和 7 年度は昨年度より 3,000 万くらい多くですね、なんとか少し頑張りました。

今年さらにですね、頑張るように職員にかなり気合をかけてます。

それで、今まではどちらかというと役場中心にふるさと納税、まあ事業者と連携しながら実はやってたんですが、私、今年ですね、町民の皆さんにぜひ標茶のふるさと納税の PR をですね、やっていただきたいということはちょっとしてます。

是非皆さんのですね、皆さんがふるさと納税を標茶にできませんから、よそ

のやらないで、標茶の町内に住んでいる皆さんの友人、知人の皆さんにですね、標茶のふるさと納税を、もし PR、一人でも二人でもいいですので、声をかけていただいて、そういったことで標茶のふるさと納税をですね、広めていただければですね、貴重な財源として有効に活用できるのかなというふうになってますので、そういった意味でも声をかけていただければと思います 企業版のふるさと納税もですね、最近新聞に出たりとか、いろんなところから実は声をかけていただいています。

標茶大変じゃない、ってことで、直接社長さんから連絡来ることもありますし、もし皆さんの中でそういう標茶に関わる企業の中で、もし標茶に対して企業版をいいよってことがあればですね、紹介していただければ、私、セールスしますので、ぜひそういった形でですね、皆さんと一緒に、町民の皆さんと一緒にですね、そういったことも積極的に行っていきたいし、やはり標茶町のふるさと納税のその返礼品自体が、どんどん作っていただくよりですね、事業者のみなさんにも声を掛けていって、PR をしていきたい、そんな風に思ってますので、何かいいアイデアとか、こんなことできないかとかあればですね、皆さんからも積極的に声をかけていただければと思いますし、今いろんな気候変動などで標茶町でもですね、今標茶高校でお米の栽培を始めようということが取り組まれていたりですね、標茶で今まで取れなかった例えば果物に目をつけたりとかですね、いろんな大きなストーリーがありますので、是非皆さんのですね、そういう機会があればですね、そんなことにも挑戦するってことも、もしあればですね、皆さんで標茶を盛り上げる材料になるんじゃないかなと思いますので、よろしく願いをしたいと思います。

副町長：

人口減少のお話があったんですけども、資料にある将来人口の見通しなんですけれども、あの、社人研というところが出している統計なんです。推計なんですけれども、これはなかなか外れないよという学者がいうぐらいですね。2025 年には何もしなければ 4,400 人までいくものだと思いますけども、何も対策を打たなければこうなるっていう、確か推計なんです。

で、何ができるかっていうので、この数年は子育て世帯に対するアピールをしたりとか、それから移住、定住対策をしてきたり、それが塘路で始めたお試し暮らし、というところなんですけれども、お試し暮らし住宅については、さっき町長からありましたけど、拡大をしたりとかですね、やっていこうというふうに思っています。

それで、移住、定住、全てを町が担当の方が把握しきれているとは思わないんですけれども、観光商工課というところが担当していますが、そこが関わっている中で言うと、令和になってから移住されてきた方の数については、20 人ちょっとぐらいの人数がですね、対策を打ってから来ているという状況になります。

これについては引き続き拡大をしながら、宣伝をしながらというふうに思っております。虹別にお試し暮らしに来てもらう、そして、よければ定住してもらうということを進めていきたいなと。

人口減少のペースを少しでも緩やかにするというのが、今、我々ができることなのかなというふうに考えての対策であります。

それから、企業誘致、遊休施設という話がありましたけれども、弥栄の学校ということが引き合いになってたんですが、学校でいうとクチョロにもありますし、それから阿歴内にもありますし、それから塘路はまだ地域と協議が済んでいませんけれども、塘路にも一応休校中の学校があるというところで施設はあるということなんですね。

それで言うと、私がこんなこと言うと町長に怒られるかもしれませんが、防災庁の地方組織というのもどこかでできますよという仕組みに手を挙げよう、というふうになってきていて、一応、標茶町もどうでしょうか。ということを手を挙げています。

というのは、千島海溝、釧路沖の巨大地震が起きたときに、沿岸部にそういう施設が、出先機関があると、津波の被害を受けるのであれば、内陸、少し内陸の方がいいんじゃないでしょうか。ということを提案、国に対して今しています。

そんな時に、もしかすると学校とか遊休施設を活用できることがあるかもしれないかなというふうに思ってますし、これまでもクチョロの学校辺りを民間の事業者さんが関心を持って見に来ていたことがあったということがあります。

実際あったんですけども、その時はちょっと、譲渡するとしたらこれぐらいでしょうかというところで折り合いがつかなかったんですね。

その辺については議会との相談の上なんですけれども、使わずにほっとくと、どんどん傷んでしまうだけなので、じゃあ価格は思い切った価格にできないとか、あるいは無償でやることはできないとか、そういう大胆なことですね、目先のお金じゃなくて、その先、そこで人が活動してくれるということの方がいいんじゃないかっていう判断になってくれば、そういったこともできるのかなというふうに思ってます。

先ほど参加者②さんからもですね、町の外に出さないということがあって、これも大事だというものですけれども、外から呼び込めたものについては、どんどん呼び込んでいきたいなということで、いろいろなことを考えていきたいと思っていますし、こういう機会にですね、皆さんからもご意見をいただいて参考にしていきたいと思います。

よろしくお願いします。

参加者①:

えーと、まあ虹別の場合、参加者③さんのように来ていただける方は大変嬉しいんですけども。

亡くなる方もいましたけれども、病院がやはり運転できなくなると、この地を本当は住みたいんだけど離れなきゃならないんだと言って去年も引っ越していった方がいるんです。

ただし、向こうに行ってもなんか通院だって、薬だけだったら期待したところに住んだら、もっと違うところに通ってくださいと言われて、なんか思ったような形じゃなくて、かえって不便になったという声を聞くんですけども。

私も目が悪いので、先ほどの病院の病床数を減らすという形になると、もし入院したときに自分もそうですけども、お見舞いに行くとかっていろんなね、着替えとか、そういうのも特にコロナの時にはそれを持って行ったりもしましたからね。

そういうのがなくなってしまったら、病院に行くのも不自由になるし、それからそういう意味では、私なんか夜の運転が全然できなくなってしまっているの、そういうことから人口減にさらに拍車をかけることになるのかなと思って不安です。

町長:

先ほどの今のご質問ね、病院の病床数の話ですけども、現在 60 床です。

実際に今入院患者はいま 20 人切るくらい、実態はですね、最大多い時でも 32 とかそのくらいの数が。

何でそれがわかるかというと、交付税、国から払ってくる交付税ですね。60 床でかけてくるんじゃないんですよ。その年の最大利用した病床数でかけてくるんですね。

非常に総務省、せこい総務省になっていますね。

そこまで削減しながら、実は地方交付税が入ってくるんですけども、わかっているんですけど、それが実は今の入院の患者さんの実態なんですね。だいたいそこで病院の方とは院長とも相談しながら、だいたいこのくらいの数で病床数を抑えても大丈夫なんじゃないか。

仮に例えば診療所になっても、診療所だと 19 床 ですから、最大でそのぐらいで抑えていく数字をとということで、実は今病床数削減すると、国が今、地方医療の支援の仕組みがあつてですね、1 床あたり約 400 万円くらいのお金が入ってくるんですけども、今の病院運営を考えるとですね、それかける、何十床にするかはちょっと別にしても、非常に大きな財源ですので、そういう、もらえるものをしっかり有効活用しながら、病院運営を今やっていきたいと思いますので、検討させてもらいますので。

ただ、病床をなくすってことにはしませんので安心してください。

副町長:

それから、病院で言うと、おくれればせながらなんですけども、電子カルテっていうものを導入して、今動いています。

あの、そうすると患者さんの会計の時の待ち時間が圧倒的に短くなるというふうになりますし、それから町立でかかって、よその病院に行く時にカルテの引き継ぎがスムーズになったっていうことがあつたりして、そういう効果を期待して投資をすることにしました。

現時点では少なくともそういうことを思ってますね、町長のお話の通り、病院をなくすとかっていうところまでは考えてない。

この地域には病院の必要が、どうすれば皆さんの役に立つ施設になるのかというところで、現状を今探しているということなので、それもちょうと併せてお話しします。

参加者⑤:

参加者⑤です。

町がお金なくて、5年間我慢しなきゃなんない、5年間我慢したら何とかなるっていうのは、ちょっとなんとなく理解したんですけど。

学校、いまちょっと関わり強くて、小学校は自分が通ってる時からあるんで、多分四十数年建てると思うんだけど。

教育委員会からも建て替えの時期だっていうのは聞いてたんですけど。

とても冬は寒く、夏は暑い、そして体育館も雨漏りする。

それもなかなか直してくれない。

カーテンは最近なんかちょっと直してくれたみたいなんで。

あと網戸もないとか、結構不便なことも。

学校教育の教育費も3割4割カットされてるっていう風に聞いたんです。

何でもかんでもカットするんじゃなくて、その教育でどうしても使いたいものがあるってなった時に、子どもたちに我慢させたくないんで、必要ないものはいらないんですけど。

そこであの、昨年、学校を、その、どうせ建て替えの時期に来てるなら、小学校中学校って言って、虹別も標茶町の人口の1割ちょっとぐらいしかいないんで、減ってるんですけど。

その減ってたら、学校の職員の数も減らされて、あと5、6年後には保健の先生が置けなくなるとかぐらいまで減る予想はついてます。

それで小学校、中学校一緒にできればくっつける形にすると、義務教育学校みたいに、なんとかあの、標茶の町の学校と同じく、事務の先生も保健の先生も置けるっていうのを、虹別の保護者、小学校、中学校の中で話し合って、つい、一緒にした方がいいんじゃないかって9割の賛成をいただいて。

昨年はその地域の方から言ってもらえるのはすごいいい意見だって言われたんですよ。やった方がいいってでも本年度になって言ったらお金がないと急に言われたんですよ。そのちょっとの、何ヶ月の差で、急に話が変わっちゃったんですよ。

学校、子どもたち、標茶の町、どこ見ても学校新しいじゃないですか。小学校、中学校、保育園。なんか町長の話聞いたら、あの、みんな平等に教育を受けさせたいって聞いたんで、虹別も予算ないなりに、そんないいものを作ってくれっては言えないですけど、せめて要望を聞いてもらえるように努力してほしいと思います。

あともう一つ、ちょっと消防の関係でもちょっと一つ聞いたかったんですけど、最近、火災が久々に虹別でありまして、自分は火災現場に行きまして、放水してたんですけど、足がとても冷たかったです。

長靴が割れて穴開いてたんですよ。ここ結構10年ぐらい履いていたんですよ。クギとか踏んでも穴開かないような普通の黒い長靴なんですけど、下に鉄板入ってるだけなんですけど。

それ、その際に穴開いて冷たかったんで買ってほしいと消防に言ったら、町の予算無いんで我慢してくれと言われたんですけど。

その火災現場に穴開いた長靴で行くっていうのは、搜索もありますし、ちょっとどうかと。我慢してくれはないよなということで、ちょっと、お願いでした。よろしくお願いします。

町長：

はい。小学校のお話は、この前、地域会の総会の時にも、そういう要望を出していくっていう話を伺いましたので、そういうことなんだなということで理解をしています。

ただ、どういう形で、例えば、この中で書いてあったのは義務教育の小学校中学校という話なので、いろんなところ、大きいところの町で実はやっています。このへんだと計根別とか白糠の小中学校で大きいところですよ。

実はかなり大規模なところでやって、例えば釧路市内だと教育大の附属小中学校とかそういうところでやってる仕組みなんですね。

ですから、単純にその校舎改築に合わせて、その義務教育小中学校に取り組むのがどうなるかっていうのだけしっかり、将来的にね。標茶は義務教育小中学校がありませんので。

ですから、そのへんで言っていたのは、やはり、町内で、ここは等しく同じ体制で教育を受けていただきたいと思ってますので、義務教育小中学校がいいのか、普通の小学校、中学校という形がいいのかも含めて、しっかりそこは教育員会含めて議論していただきたいなど。お話を聞いてると、財源の手段としてっていうようなニュアンスがちょっとあるのかなという、ちょっと感じがしたので、ちょっと思っていました。

あとはどういう戦略をしっかり持って、こういう内容で、例えば義務教育小中学校、例えば町内の中でもここでしかやれないような教育内容をやるんだとか、そういうものがしっかり組み立てであって、例えば、酪農のまち標茶の中の虹別です。

そういったことをしっかり小中学校の教育課程の中にしっかり組み込まれたような教育をやるとか。

あの、実を言うと、私、町長になってからふるさと教育ということで、釧路のカヌーの体験だったりですね、昨年から馬の体験が始まりました。

一つ、ちょっとまだやりたいなと思ってたのは酪農体験なんですね。

そのなかなか農家をしている皆さんでの搾乳体験はあんまりなかったんですね。まあ、そういう私の小さい時とは全然違うような生活環境になっているのかなと思いますので、そういったところですね、今、例えばTACSしべちゃは教育関係の受け入れの資格を取ったりとかしてるんですね。

とか、例えば標茶高校も牛も飼って牧場も整備されていますので、そういうところと連携しながらそういう組み立てができる場所ですね、そういったところまでしっかりいいものが組み立てられれば、皆さん納得するのかなと思いますので、いろいろ皆さんと研究してみたいと思います。

それから消防の方は私も後で署長に言っておきます。

これは最低限の装備品だと思います。

ちょっと状況わかんないんで、最近消防団も団員、新しい団員の方、何人か

入ったりしてきてるので、全体の予算的にちょっと調節できるのかどうかわかんないんですけど、ぜひ活用していただきたいと思います。

参加者⑥:

参加者⑥です。

えー、今の答弁が全く意味がわかんなかったんですけど、その保護者の意見として、義務教育学校を進めてほしいという中で、その義務教育学校にするには、そこでしか体験できないようなのも入れ込まないとできないという話なんでしょうか。

多分その、白糖学園とか、計根別学園とかにしても、計根別学園じゃないとできない、だから、計根別学園を作る、で、作ってはいないと思うんです。

それ、なんで標茶だけなのかなって、今聞いてて思ったのは。

町長:

他のまちまで僕そんな詳しいわけじゃないですけども、標茶町の中で、例えば義務教育小中学校をやりたいということであれば、標茶町虹別だけやはり特別な学校を作ることになると思うんですね。

その中で、やっぱり他と差別化したような形で、場合に寄ってはね、他の地域から虹別の義務教育小中学校に入りたいっていう子供たちが出てくるくらいが、僕は学校があったら、作れるんだったら、それは町も教育、応援できるのかなと思うんですね

参加者⑥:

いや、それでいうと、その同じようにっていうのであれば、虹別の小学校あれだけ、言い方悪く言えば、ぶん投げて古くなってる中で、他のどんどん新しくして閉校とか休校になってるじゃないですか。

そこら辺の平等性がない中で、そこだけは平等性を主張してくるのは何ですか。

町長:

まあそれはね、それぞれ年数が経って順番に改築、今までしてきたんだと思うんですね。で、それが今、偶然、たまたま、まあそれがちょっと遅れてんのかどうかはちょっと僕もわかりませんが、そういう時期に差しかかってきてるんだと思います。

それはわかります。

ただその時に全く違うものを作れとか、なんとなつていうことであれば、しっかりした形がないと、なかなか。

参加者⑥:

じゃあ標茶の中学校は、耐震工事終わったのに、さらにまた新しく建て替えるのはいいんですか。いいんですかって言うのは、それやったからいいんでしょうけど。

町長:

まあそのタイミングについては、私ね、当時の責任者じゃない、何でもないんで、何とも言えないんですけども。

あの、耐震やった後に、まあ改修をしたってことを言われてるんですよ。

参加者⑥:

そうですね。

町長:

ただ、あの、改修といっても、あの耐震改修といっても、鉄骨で囲って、中の設備とかなんとかいくまで、実はあの確か耐震で2億くらいでやってるから、全てのあの規模のね、部分の設備がリニューアルしたわけじゃないんです。ここだけは僕も知ってます。

参加者⑥:

でも、さっき参加者⑤さんが言ったみたいに、立派なものを作れって言うわけじゃなくて、そういう今の虹別としての現状で、こう進んでほしいって言った中で、その予算がないとか、その何か新しいことをしないとできないって言うのであれば、これからその地域として保護者として要望を出してももう通らない。それがなければ。

町長:

いや、そういうのじゃなくて、やはり皆さんに理解してもらえるようなものを、僕は逆に言うと作ってほしいと思ってるんです。

参加者⑥:

作ってほしい・・・ですか。

町長:

うん。

もし、ね、虹別だから、あ、こういう学校をつくろうとしたんだというふうに、逆に別の意味の期待を僕も込めてしゃべってるんですけど。

単純にね、例えば施設古くなって、次、財源的なことも考えると、中学校と併設してね、一つの学校にした方がいいよっていう、なんかそういうレベルでしか、もしかしたら見ないかもしれないんでね。

参加者⑥:

じゃあその一つにした方が予算が収まるのは町の考えじゃないですか。

こっちは子どもたちのことを考えて二つを一つにした方がいいっていう話なんです。

町長:

まあその辺がね、僕も、あの、わかんないですけども。

まずね、そういう話が出てるって事も、まあ僕も理解してましたし、この前教育長のところ行ってたときにね、裏口で会って、お話を聞いたのを、わかってますから。まあこういう動きをやってんだなっていうことで。

ただね、予算がないからってことでは、なんかね、昨日もそうだったんですけども、磯分内でやったんですけども、役場の職員にいろいろ相談したら、いきなり予算がないって言われたって、町民の方に言われるんで、職員に僕は改めて言おうと思ってますから。

予算がなくても、話はちゃんとしっかり聞くようにって話を、その中でいろんなアイディアを出しながらね、もしかしたらできることがあるかもしれませんので。

いきなり予算がないからっていう、もう初めからシャットアウトされてるみたいなことを言われたので、それはちょっと職員に対してはちょっと言わなきゃなんないなと思ってますので。

だからそれと同じですよ。

あの、話は聞きます。

まだちょっとね、あの、いろんな地域の中で成熟させていただいて、持ってきてもらえればいいのかと思いますね。

ですからその予算ないからってことじゃなくて。

そういうふうに言われちゃうと、なんかこっちも、いやあって思っちゃうんです。なんとか、あの、努力しながら、いろんなところからね、いい財源持ち寄りながらとかって、色んなことは職員考えてますので。

はい。否定とかそういうんじゃないありませんので。

参加者⑥:

でも、それちょっとわかんないな。聞いてて。

町長:

また今度ゆっくりしゃべりましょう。

(5) 開会あいさつ

(6) 開会 午後8時45分